

# ～造船所の仕事について学ぼう～

## 中学生向け造船所見学会・海事講座の開催

旭川運輸支局は、令和6年11月13日（水）、14日（木）の二日間にわたり、関係団体と協力し、稚内市立稚内中学校1年生24名、稚内市立潮見が丘中学校1年生47名の総勢71名を対象に、造船所見学会・海事講座を開催しました。

四面を海に囲まれた私たちの暮らしは、船によって支えられており、その船を支えるのが造船所です。本事業は、それら海事産業の将来の担い手である中学生を対象に実施、船やものづくりに対する好奇心を喚起し、海や船、地元産業の大切さを理解する機会とするものです。

また、この時期の乾ドックには、利礼航路に就航するハートランドフェリー（株）のカーフェリー（今年アマポーラ宗谷（4265トン））が入渠していることから、ドックとフェリー船内の両方を見学しました。

まずは海事講座です。北海道運輸局職員が講師となり、「海運の重要性」「様々な種類の船」「造船所の役割」等を説明し、地元の造船所 稚内港湾施設（株）についても紹介します。



そしていよいよ造船所見学です。

乾ドックの底に降りると、上に見上げるフェリーの巨大さに、生徒たちから「おー」の感嘆の声が上がります。船尾の巨大なスリューなど、普段は水面下にあるため決して見る事が出来ない船底の様々な設備が目の前に！！

造船所の方からは「秋に船をドックに入れて海水を抜くと、沢山の鮭が取り残されていたこともありましたよ」など面白いエピソードも紹介されました。



フェリーの船内では、普段は絶対に触ることが出来ない船橋の機器類に、ドック中のため特別に触れることが出来ました。生徒たちは蛇輪を回したり、主機関の操作レバーをいじったりすることが出来てとても楽しそうでした。



今回の事業により、参加した中学生に海事産業に興味を持って貰えたら何よりです。そして将来は海事を支える仲間となっただけならば最高です。

## ▼ 参加生徒の感想 ▼

かんドッグにアキアジなどの魚が入るなど、おもしろいことが聞けて良かったです

やっぱり、船は近くで見るとデカいなーと思いました

初めて知ることが多くてワクワクしました

ハンドルやレバーにさわれたのが印象に残りました

エンジンのところが色々なパイプとかがあって、すごいなと思いました

船旅をしたくなりました



船をつくる大変さ、海の仕事について、いままでしていたことの倍以上くわしく知ることが出来ました

## ▼ 中学校先生からのコメント ▼

すべてにおいて、すばらしく、おもしろい内容でした

最初の座学、そしてフェリー見学と素晴らしい内容で、生徒だけでなく我々教員も楽しませていただきました

今回のように、海事産業が地方でどのように根付き、世界とどう繋がっているのかを指導者側が知ることが大切かと思います。  
また、教師単体での研修は難しいと思いますので、このような生徒と一緒に参加出来る形態が望ましいと思います。  
“生”の教材に勝るモノはありません

